

平成29年度 中間決算概要

1. 連結決算概要（経営成績）

単位：億円〔単位未満切捨て〕

区 分	H28年度 上期実績 A	H29年度 上期実績 B	対前年増加額・率		H28年度 通期実績	H29年度 通期見込 ※
			B-A	(%)		
営業収益	4,780	5,000	219	4.5%	10,345	11,062
高速道路事業	4,439	4,631	192	4.3%	9,545	10,021
(料金収入)	4,228	4,370	141	3.3%	8,225	8,422
(道路資産完成高)	176	225	48	27.7%	1,229	1,515
(その他の営業収益)	34	36	1	4.2%	89	83
関連事業	364	394	30	8.3%	862	1,111
(SA・PA事業)	227	228	1	0.7%	420	426
(受託・その他の事業)	137	165	28	20.8%	441	685
セグメント間取引の消去	△ 23	△ 26	△ 3	14.2%	△ 62	△ 71
営業費用	4,341	4,699	357	8.2%	10,155	11,002
高速道路事業	4,018	4,354	336	8.3%	9,373	9,988
(道路資産賃借料)	2,805	3,052	246	8.8%	5,797	6,058
(道路資産完成原価)	176	225	48	27.7%	1,229	1,515
(管理費用等)	1,036	1,077	40	3.9%	2,345	2,415
関連事業	347	371	24	7.0%	843	1,085
(SA・PA事業)	208	204	△ 4	△1.9%	399	397
(受託・その他の事業)	138	167	28	20.5%	444	687
セグメント間取引の消去	△ 23	△ 26	△ 3	14.6%	△ 62	△ 71
営業利益	438	300	△ 138	△31.4%	190	59
高速道路事業	421	277	△ 144	△34.1%	171	32
関連事業	17	23	5	34.2%	18	26
経常利益	453	318	△ 134	△29.6%	220	90
親会社株主に帰属する中間純利益	312	411	99	31.9%	242	264

※) H29年度通期見込は、当社が現時点で合理的と判断する一定の前提に基づいており、多分に不確定な要素を含んでいます。実際の業績は様々な要素により、上記の計画と異なる可能性があることをご承知おき下さい。なお、本見込は東京外かく環状道路（三郷南IC～高谷JCT間）が平成30年6月までに開通となる見通しに基づくものです。

(注) 当社グループの事業区分及びその主要内容は、以下のとおりです。

事業区分	主要内容	
高速道路事業	高速道路の新設、改築、維持、修繕、災害復旧その他の官理等	
関連事業	SA・PA事業	高速道路の休憩所、給油所等の建設、管理等
	受託事業	国、地方公共団体等の委託に基づく道路の新設、改築、維持、修繕等、その他委託に基づく事業等
	その他の事業	駐車場事業、トラックターミナル事業等

2. 連結営業概況

(1) 高速道路事業の営業状況

- 高速道路事業の営業収益は、前年度比192億円増の4,631億円となりました。
圏央道の開通^{※1}による交通量の増加等により、通行台数は前年度比2.2%増の295万台/日となり、料金収入は前年度比141億円増の4,370億円となりました。
道路資産完成高については、山元南スマートICの開通などにより前年度比48億円増の225億円となりました。

※1) 平成28年度開通区間 圏央道 境古河IC～つくば中央IC 28.5km

- 高速道路事業の営業費用は、前年度比336億円増の4,354億円となりました。
営業費用のうち、独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構に対する道路資産賃借料は、前年度比246億円増の3,052億円となりました。
道路資産完成原価については、道路資産完成高と同額を計上しています。
また、管理費用等については、舗装などの土木構造物補修工事や圏央道の開通による増などにより、前年度比40億円増の1,077億円となりました。
- この結果、高速道路事業営業利益は、277億円(前年度は421億円の営業利益)となりました。
- 当社においては、高速道路の料金収入は下期に比べて上期のほうが多く、管理費用は下期のほうが冬期の雪氷対策費用などにより、上期に比べて多くなる傾向があります。
このため、上期の営業利益は277億円ですが、下期は244億円の損失を見込んでおり、この結果、通期では32億円の営業利益を見込んでいます。

■平成29年度高速道路事業 営業損益（連結）

単位：億円〔単位未満切捨て〕

区 分	上期実績 ①	下期見込 ②	通期見込 ①+②	
営業収益	4,631	5,389	10,021	
（うち料金収入）	4,370	4,052	8,422	上期＞下期
営業費用	4,354	5,634	9,988	
（うち管理費用等）	1,077	1,338	2,415	上期＜下期
営業利益	277	△ 244	32	

(2) 関連事業の営業状況

- SA・PAの飲食・物販店舗売上高は、商業施設の新設や、5月の大型連休期間中の日並び及び好天等の影響のため561億円となり、0.5%増加しました。
- このためSA・PA事業営業収益は前年度比1億円増の228億円となりました。また、営業費用は、販売促進費・一般管理費の減などにより、前年度比4億円減の204億円となりました。
- この結果、SA・PA事業営業利益は前年度比5億円増の24億円となりました。また、関連事業全体の営業利益は、前年度比5億円増の23億円となりました。

(3) 中間純利益

- 親会社株主に帰属する中間純利益は前年比99億円増となる411億円となりました。これは、建設関係法人厚生年金基金について、今年度に代行部分の過去分返上を行ったため特別利益として281億円を計上したことによるものです。

【参考】個別決算概要(経営成績)

区 分	H28年度 上期実績 A	H29年度 上期実績 B	対前年増加額・率		H28年度 通期実績	H29年度 通期見込 ※
			B-A	(%)		
営業収益	4,600	4,817	217	4.7%	10,011	10,724
高速道路事業	4,407	4,598	190	4.3%	9,467	9,948
(料金収入)	4,228	4,370	141	3.3%	8,225	8,422
(道路資産完成高)	176	225	48	27.7%	1,229	1,515
(その他の売上高)	2	2	0	6.3%	11	9
関連事業	192	219	26	13.6%	543	776
(SA・PA事業)	56	58	1	2.7%	105	108
(受託・その他の事業)	136	161	24	18.1%	438	667
営業費用	4,160	4,517	356	8.5%	9,879	10,709
高速道路事業	3,977	4,310	332	8.3%	9,345	9,947
(道路資産賃借料)	2,805	3,052	246	8.8%	5,797	6,058
(道路資産完成原価)	176	225	48	27.7%	1,229	1,515
(管理費用等)	996	1,033	36	3.6%	2,317	2,373
関連事業	182	206	24	13.4%	533	762
(SA・PA事業)	43	43	△0	△1.2%	93	91
(受託・その他の事業)	138	163	25	18.1%	440	670
営業利益	440	300	△139	△31.7%	132	14
高速道路事業	429	287	△141	△32.9%	122	0
関連事業	10	12	1	17.0%	10	13
経常利益	475	368	△106	△22.4%	171	84
中間純利益	325	463	138	42.4%	205	277

※) H29年度通期見込は、当社が現時点で合理的と判断する一定の前提に基づいており、多分に不確定な要素を含んでいます。実際の業績は様々な要素により、上記の計画と異なる可能性があることをご承知おき下さい。なお、本見込は東京外かく環状道路(三郷南10~高谷JCT間)が平成30年6月までに開通となる見通しに基づくものです。

■ トピックス(平成 29 年度上期の主な取り組み)

【高速道路事業】

■ 常磐自動車道の機能強化(4車線化・付加車線設置)

平成28年6月8日に事業許可を受けました常磐自動車道の機能強化「4車線化(いわき中央IC～広野IC・山元IC～岩沼IC)及び6箇所の付加車線設置(広野IC～山元IC)」の整備について、復興・創生期間内(平成 32 年度まで)の完成を目指し、工事に着手しました。



福島県着工式(6月 いわき中央IC～広野IC)



宮城県着工式(7月 山元IC～岩沼IC)

■ 高速道路リニューアルプロジェクト(機能の向上と長寿命化)

東北自動車道福島西IC～福島飯坂IC(下り線)において、老朽化した橋りょうの対策工事を実施しました。平成29年度上半期においては、4橋の床板取替工事などが完了しています。



高速道路リニューアルプロジェクト(東北自動車道 吾妻橋(あづまばし)大規模橋りょう補修工事)

■ 暫定二車線区間における安全対策(ワイヤロープの試行設置)

暫定二車線区間の重大事故削減に向け、車線区分柵(ワイヤロープ)の試行設置(合計約70km)を完了、運用を開始しました。現在、正面衝突事故防止対策の効果検証を実施しています。



磐越自動車道(新津IC～新潟中央JCT)

【関連事業】

■SA・PA商業施設のオープン

道央自動車道 輪厚PA(上り線)の商業施設を、地域性・旅の楽しみを凝縮した旅のドラマを演出する「ドラマチックエリア」として、平成 29 年 4 月 25 日にリニューアルオープンしました。

また、お客さまへのサービス・利便性の向上のため、これまで商業施設の無かったPAに新たに商業施設をオープンしました。〔千曲川さかきPA(上り線・下り線):平成 29 年 4 月 28 日、四倉PA(下り線):平成 29 年 8 月 3 日〕



道央道 輪厚PA(上り線)



上信越道
千曲川さかきPA(上り線)



常磐道 四倉PA(下り線)